

### 高校・特別支援学校

## 「大学入学共通テスト」見据え

現行の大学入試センター試験に代わって平成32年度から実施される「大学入学共通テスト」などへの対応を見据え、茨城県教育研修センターが本年度から高校教員を対象とした「思考力・判断力・表現力を高める指導力向上研修講座」を開始した。近い将来、県内の各県立学校で教科指導の中心的存在となることが期待される31人が参加し、生徒の論理的な思考力や判断力、表現力を高める指導法を学ぶ。

## 思考・判断・表現力高める指導を追究

**茨城県大学入学者選抜改革等対策事業**(平成29～31年度)として始まった「思考力・判断力・表現力を高める指導力向上研修講座」は、6・8・10月の全3日間。参加したのは、県立高校・中等教育学校後期課程の教職経験が5年以上で、国語・地理・歴史・数学・理科・英語のいずれかを担当する中堅教員231人だ。講座協力を務める県立高校教員の3年間を見通した発展的な学習指導に関する実践発表や演習、専門家の講義などを通して、生徒に教科の枠を超えて求められる論理的な思考力や表現力を高める指導力の向上を目指す。

初回の6月26日は、荒瀬克己・大谷大学教授による講義や教科別の研究協議に先立ち、安藤昌俊・茨城県教育

### 茨城県教育研修センターが研修講座

研修センター所長が対象に課外の論説対策講座の趣旨を語った。安藤所長が教科指導のスペシャリストを自認する参加教員に勧めたのは、定期考査や実力テストなどをオリジナルで作問すること。地歴問題を客観的に評価する力に身をつけたら、年県立高校で教壇に立つ。安藤所長自身、新規採用時から全科目を担当。年々、新採用者が減り、経験者が増え、その中で自分なりの指導法を築き上げてきた。安藤所長は「オリジナリティを大事にし、生徒も継続的に学習できるように、卒業生60～150名程度の論

述問題も出題してき

## 「論述問題含む独自作問を」

所長講話



参加教員を前に、講座の趣旨を説明する安藤所長

## 東大の過去問解き採点基準作成

「高校時代に身に付けた力が進学後、社会人になってからも生かされている」との声が絶えないという。加えて、安藤所長は「オリジナルのテストや生徒に考えさせる授業をつくるべく、中堅教員は、生徒に多くの刺激を受けながら教員も育っていく。研修で得た指導方法を早速各学校で実践し、ぜひ同じ教科・科目の先生から広めてほしい」と呼び掛けた。国語科の実践発表では、講座協力の大竹伸輝・県立首領高校教諭が勤務校での3年間を振り返り、指導内容を紹介。8回の考査に関して、担当者がそれぞれ問題を持ち寄って作問検討会(問検)を行



事前課題で作成した各自の模範解答や採点基準を持ち寄り、熱心に話し合う教員たち

う。特に現代文は、応用問題として各学年の段階に応じた難易度の評論文を必ず出題し、解答は記述形式を中心とする。▽答案返却時には約1時間かけて問題の解説を行い、採点基準と解法をプリントにまとめて配布する。など、各取り組みについて詳細に説明した。教科別研究協議では、実際に参加教員が事前課題として過去の東京大学の問題の解答例と採点基準の作成にチャレンジ。各自の解答例と採点基準を基にグループで話し合い、キルを磨いた。初めて東大の問題を解いたという女性教員や生徒に考えさせる授業をつくるべく、中堅教員は、生徒に多くの刺激を受けながら教員も育っていく。研修で得た指導方法を早速各学校で実践し、ぜひ同じ教科・科目の先生から広めてほしい」と呼び掛けた。

問検検討会(問検)を行

茨城県教育研修センター教科教育課 ☎0266-78-3213